

# 新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO



January 2019  
No.791



## 地域コミュニティ活動活性化支援事業

### 「お寺でゴーン」(新潟市東地区公民館)

お寺に宿泊して体験活動。ご住職のご厚意で朝の鐘つきも体験しました。

## 4~5 特集 公民館月報座談会

CONTENTS

- 2………… トピックス 「新潟市公民館改革職員研修会」開催される
- 3………… 視 点 「学校外に広がる中学生の学びの場」 新発田市立佐々木中学校 籠島 洋  
ひ ろ ば 「歳月の流れ」  
上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員 樋口 嘉和
- ………… 掲 示 板 「会議予告 事務局」
- 6………… 実践記録シリーズ 市民大学講座 「心豊かに輝く未来」 加茂市公民館
- 7………… サークル交流 「篠笛の魅力を 伝えよう」(阿賀野市) / 「楽しくをモットーに」(南魚沼市)  
素 顔 拝 見 高橋 和人さん(津南町) / 矢川 浩之さん(出雲崎町)
- 8………… お元気ですか 「お元気ですか」 湯沢町・南雲ワイ子さん  
ネットワーク 下越地区公民館職員研修会開催される

# 「新潟市公民館改革職員研修会」開催される

新潟市公民館改革職員研修会が11月25日(日)に横越地区公民館で開催されました。

この研修会は、平成22年度に開催されて以来今年度で9回目の開催となります。日曜日開催ではありませんでしたが、108名の職員が参加しました。

新潟市公民館改革宣言を確認して、研修会は次のように進められました。

## 新潟市公民館改革宣言

新潟市の公民館は、地域の人たちが主体となって、地域の持つ力を最大限に発揮できるよう、一層に考え、学び合い、学びの成果を生かして、地域の絆づくりを支援します。  
私たちは、地域に出かけ、一緒に取り組み、地域を元気にします。  
平成22年9月4日  
新潟市公民館

## 宣言詳細版

【ふれあい・まなびあい・ささえあい】  
「あい」のある地域をめざして  
今、踏み出します！  
・・・愛・会・合・逢・相・eye・・・

○浅間中央公民館館長あいさつ  
○ワークシヨップ

「新潟市公民館改革宣言とその具体的な取り組み」について、ワークシヨップが行われました。

・改革宣言を踏まえて、3つのアピールそれぞれに、今、どんな取り組み、どんなやり方をしていきますか？

①ふれあいアピール「公民館は、地域に出かけていきます。」

地域が何に悩みどんな課題を抱えているか把握するため、どんなことを行っていますか？  
どんなことを心がけていますか？

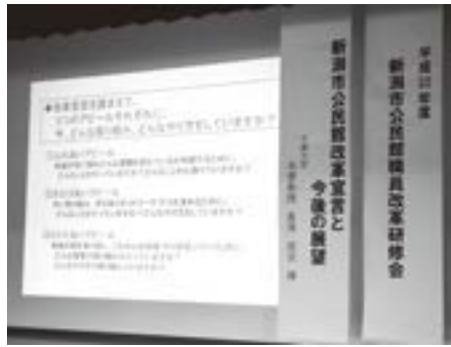
②まなびあいアピール「公民館は、地域の皆さんと一緒に取り組みます。」

共に取り組み、学び合うネットワークづくりを進めるために、どんなことを行っていますか？  
どんなやり方をしていますか？

③ささえあいアピール「公民館は、地域を元気にします。」

地域の絆を取り戻し、これからの地域づくりを担っていくために、どんな事業や取り組みを行っていますか？  
どんなやり方で取り組んでいますか？

以上の点について、アピールごととにいくつかの公民館から具体的な取り組みについて(事例)発表がありました。



○基調講演  
千葉大学名誉教授の長澤成次氏

から「新潟市公民館改革宣言と今後の展望」について1時間30分の講演が行われました。

はじめに、新潟市の公民館改革宣言は8年前に行われたものが、公民館のマニフェスト、スロガンが内発的に生まれたもので改革の動きを創ったということはずばらしいことであると話があり講演が始まりました。

講演で強調されていたのは、人口減少や少子高齢化が顕著になる中で、生涯にわたり学び活躍できる循環型生涯学習社会の構築が今求められていること。

これまでの公民館活動について(新潟市・全公連の取り組みを紹介された)振り返ってみて公民館活動は「自分づくり、町づくり」と考えているということ。

公民館の在り方について、「学びをとおして自治能力を高めていくものである」、「地域住民の側にたつて事業を進めていく」、「実践をまとめていくことも大事である」と語られました。

最後に、国の情報として平成30年10月16日に生涯学習政策局が総合教育政策局に組織改編されたことと公民館の主管が教育委員会から首長部局に特例で移管することができていることに対して、公民館の

位置づけが弱まるのではないかと心配していると述べられ講演を終りました。



基調講演 千葉大学名誉教授 長澤成次氏

## ○グループワーク

参加者全員を14のグループに分け公民館職員つながりの強化と改革宣言の実践にむけて話し合いを行いました。

## ○シユアリング

ワークシヨップ、基調講演、グループワークに参加した感想と各グループの研修テーマの発表を行いました。

最後に公民館の今とこれからのについて、新潟市の公民館職員が課題を共有し、これからの取り組みについてグループトークやシユアリングにより実践の方向を明確にできた素晴らしい研修会であったと感じました。(広瀬)



### 「歳月の流れ」

上越市社会教育委員・  
上越市立公民館運営審議会委員  
樋口 嘉和



最近、行政組織の改編の一環として、社会教育課を廃止し、地域学習推進課を新設する動きがある、と聞いています。  
その流れの中で、地域づくりの推進を理由に、公民館組織が市長部局のコミュニティ政策に組み込まれる状況が増えているとのニュースがありました。  
平成の大合併でスタートした上越市の公民館運営の在り方も、当初、合併前の地域ごとに様々な活動形態があり、運営方針の在り方を巡って地域と行政の間で議論を重ねた時期がありました。

最近、行政組織の改編の一環として、社会教育課の皆さんの努力もあり、一定の成果が出てきていると思っていました。  
平成10年代後半までは、小さな自治体にとって、公民館事業の中心は地域づくりの推進でしたので、広域合併に伴う都市型で生涯学習推進をメインに置いた事業運営のあり方に戸惑いがあったのです。  
その後、幾多の変遷を経て地域づくり事業は各地域の地域づくり協議会に移管され、行政組織の一翼を担うようになりました。  
公民館活動も大きなエリアを持つ地域公民館組織と、超過疎地区を担当する小規模地区館組織と

は、若干実態が異なっているように思われます。  
いずれにしても「地域の拠り所」としての公民館という視点が大切であり、これからも「そうあってほしい」という願いが住民の心情だと思っています。  
社会情勢の大きな変化に伴って、公民館の在り方も移り変わっていく過渡期を迎えているのでしようが、今後も「社会教育事業」と「公民館事業のあり方」、「地域づくりのポイント」と「生涯学習推進のあり方」など、関係者が知恵を出し合って勉強をしていくことが大事であると思えます。

## 視点



新発田市立佐々木中学校  
籠島 洋

### 「学校外に広がる中学生の学びの場」

中学校の教育課程には「総合的な学習の時間」という授業があり、各校が50〜70時間をかけて、特色ある取組を行っている。当校では、キャリア教育を中心に据えながら総合的な学習の時間を進めており、今年の2年生では職場体験で、新発田市公民館や新発田市商工振興課など市内の数カ所の事業所に協力をいただいた。  
これまでの中学生による職場体験は、中学生がそれぞれ事業所や公共施設で実際の仕事を体験し、働くことの楽しさや大変さを経験するというかたちが主流であったと思われる。従来の職場

体験のかたちから、生徒がより主体的に職場体験に取り組むことができるように、今年度、当校ではその職場体験の中身を大幅に変えてみることにした。職場体験の実施前に、受け入れ側の事業所の担当者や中学生が交流する機会を設けた。そこでは、事業所の方から、自分の半生を語っていただくと共に、現在の仕事の内容にも触れてもらいながら仕事のやりがいや中学生に伝えていただいた。  
その話のなかで、中学生を職場の同僚の一員とみなして、現在仕事上で抱えている課題の解決策を中学生目線で考えてほしいという一つのミッションを提示していただいた。生徒は、3日間の職場体験で仕事のイロハを経験するだけでなく、与えられたミッ

シヨンの解決策を探りながら仕事を体験した。職場体験後に各事業所に向けて提案する準備に取り組んだ。つまり、職場体験が終わってから、中学生にとっての本格的な学びが始まったのである。  
提案発表の場所として、新発田市の駅前複合施設イクネスしばたを借り、中学生らしい提案をすることができた。提案後には事業所の方から多くの賞賛の言葉をいただき、生徒も満足そうな笑顔を浮かべていた。  
中学生の学びの場が、学校の内に留まらず、大きく外に広がり始めていることを実感した職場体験となった。そういった意味からも、学校現場への社会教育の視点からの支援や助言がますます重要な意味をもつ時代が到来していると感じている。

## 掲示板 HOT NEWS

- <第2回公民館月報編集委員会>
- 日時 平成31年2月7日(木) 13:30~16:30
- 会場 新潟市中央公民館 404講座室
- 内容
  - (1)平成31年度公民館月報の編集について
    - ① 市町村執筆担当について
    - ② 特集執筆者の選任
    - ③ 紙面構成の検討
  - (2)その他編集全般について

- <第3回理事会・第2回評議員会>
- 日時 平成31年2月13日(水)
- 理事会 10:00~12:00
- 評議員会 13:30~16:30
- 会場 新潟市中央公民館
- 理事会 404講座室
- 評議員会 405講義室
- 内容
  - (1)平成30年度決算見込みについて

## 会議予告 事務局

- (2)平成31年度基本方針・重点目標・事業計画(案)について
- (3)平成31年度予算(案)について
- (4)第70回新潟県公民館大会(新発田市)の開催概要について
- (5)社会教育機関・団体との連携事業、運動等の協力について
- (6)その他 当面の問題について

# 特集

## 公民館月報座談会

### ○座談会開催

テーマ「公民館月報の編集とこれからの公民館活動」について

11月29日(木)に新潟市中央公民館で座談会を行いました。「公民館月報の編集とこれからの公民館活動」をテーマに意見交換を行いました。

・座談会のメンバー  
渡邊 善則さん

(小千谷市公民館)

布施菜美子さん

(新潟市中央公民館)

丸山 聖乃さん

(上越市立公民館)

司会 広瀬 松司

(県公連事務局長)

記録

小出 守仁(新潟市新津地区公民館)

田原 理(県公連事務職員)



座談会の様子

最初に自己紹介をしました。

(渡邊) 小千谷市公民館長の渡邊です。私はずっと小学校の教員をしておりまして、退職後、公民館へ赴き

まして3年目となります。

公民館の業務はこれが初めてですが、10年ほど前、中越教育事務所社会教育課で3年間、公民館担当として



小千谷市公民館館長 渡邊 善則

勤務したことがあります。

今日は、皆さんのご意見を伺いながら、何か新しいものを持って帰れたら良いと思っています。



新潟市中央公民館 布施菜美子さん

(布施) 新潟市中央公民館の布施です。私は、公民館の嘱託職員として勤務し、気が付けば、今年で10年目を迎えました。新潟市の公

民館嘱託職員として採用されましたので、最初は中央区の鳥屋野地区公民館、次に南区の白根地区公民館、そして現在は市の中央公民館に勤務しています。公民館での仕事はそれぞれ地域性があり、非常に面白いと感じています。



上越市立公民館 丸山 聖乃さん

(丸山) 上越市から来ました丸山です。私は普段上越市の社会教育課に勤務して、主に市内28カ所の公民館に勤務されている公民館

主事と一緒に事業の企画・運営を行っています。公民館業務と公民館月報の編集委員は今年で3年目となります。最初はこの仕事に対して苦手意識を持っていましたが、最近は大抵だん公民館事業の面白さが分かってきたような気がします。

### 「公民館月報の編集について」

(広瀬) 皆さんは公民館月報の編集委員として活躍されていますが、最近では月報離れが進んでいます。発行部数も減り、内容もマンネリ化してきていると

のご意見も頂戴しています。

現在は、「トピックス」や「ひろば」、「特集」、「サークル交流」など工夫をしているところですが、購読数の減少に歯止めがかかりません。

こうした現状を踏まえ、皆さんが月報の内容についてどのように感じているかお聞かせください。

(丸山) いろいろなコーナーがあつて面白いと思います。業務上参考になるところもたくさんあると思います。一番好きなのは、「サークル交流」と「素顔拝見」で、最初に読みますね。読んでいて面白いです。

(布施) 限られた予算で全ページカラーというのは難しいと思いますが、現在の表紙と裏表紙だけカラー印刷でも、十分目を引くと思います。内容的にも興味がある研修や交流会の様子を、後から紙面で読めるのはとても良いと思いますし、「サークル交流」や「素顔拝見」も掲載された方や団体を身近に感じられて、良いと思います。ただ、新潟市は他市町村より多くの記事を担当していますので、たくさんの方に原稿を依頼しなければいけません。館によっては、色よい返事がもらえず、心が折れそうになることがありますね。

(渡邊) やはり現場は忙しいですからね。当館では職員は私をいれて8人。月報は他の文書と一緒に回覧されるため、月報が埋もれてしまつて、忙しい職員たちの目に留まらないのが現状です。もう少し、月報をゆっくり読むことができればいろいろな情報を得ることができるようになると思います。それと、なかなか公民館内で研修をすることができないので、月報

に掲載されている研修会の概要などを活用できないかと考えています。

内容的なことを言いますと、当館に長く勤めている職員が「数年前とあまり変わっていない。」と語っていました。

(広瀬) 長く勤めている人から見れば、マンネリ化しているように見えるのでしょね。新たにコーナーを設けるなどアイデアがありましたら、お聞かせください。

(丸山) 悩みごとや困りごとの相談コーナーなど面白いのではないのでしょうか。

(田原) 全国の月報で「私、こんな失敗をしました」というコーナーがありました。結構面白かったので、県の月報でもできないものではないでしょうか。

(布施) 良い例はたくさん見ることができませんが、失敗した例は目にする機会がないですよ。皆さん、多かれ少なかれ失敗していると思います。面白い企画だと思えます。

(渡邊) 小千谷は青少年や家庭教育が弱いと感じています。そういったものをピックアップしてQ&Aのような形で紹介してもらえるとありがたいですね。

(広瀬) 「私、失敗しました」や「分野」のQ&Aといったヒントをいただきました。

皆さんからいただいたご意見をもとに、内容はもとより、発行回数やページ数なども検討したいと思っています。

## 【これからの公民館活動について】

(広瀬) 公民館が教育委員会の所管から市長部局へ移管されるのが可能になるといって、今の公民館の「教育施設」としての役割が変わるうとしています。そんな中、最近の公民館は地域の活動に若い人を取り入れることに力を入れ始めていると聞きました。小千谷でもそういった若い人を取り入れた取り組みがあるとお聞きしましたが、ご紹介いただけますか。

(渡邊) 昨年から取り組んでいる事業に高校生を対象とした「オヂトーク」という人材育成講座があります。若い人の流出に歯止めをかけ、一旦市外に出て、将来的に小千谷に戻ってくることを願っているものです。

小千谷市には高校が2校ありますが、この生徒を50名ほど集めて、小千谷の現状を知ってもらい、小千谷に何があれば良いかを話し合うワークショップです。空き店舗のシャッターに絵を描く、空き店舗を活用して高校生が学校帰りに立ち寄れる場所を作るなど、いろいろなアイデアはできましたが、高校生を主体としてこれを実現するのはなかなか難しいですね。集まった高校生はやる気もアイデアも持っているのですが、高校3年生ともなると、秋からは受験勉強に入ってしまうので、アイデア実現まではいきません。2年間やってみましたが、来年度はどうしようか検討しているところです。

最近では、学校も地域と連携した事業に取り組んでいますので、オヂトークのような活動は、学校にしっかりとやっていただいで、公民館としては、例えば書道部の書道パフォーマンスを公民館主催のイベントでやってみようなど、公民館に来てもらうことで、高校生とのつながりを深めてはどうかと思っています。ほかにも20代・30代の人を対象とした人材育成講座がありますが、これは勤労青少年ホームが主体となつて、生涯学習課や観光交流課が関わって実施したものです。

(広瀬) 公民館単独ではなく、観光交流課といった他課とタイアップをして若い人を取り入れていく流れですね。

(布施) 他課との連携という点では、「茶の間の学校」という取り組みをしました。これは地域包括ケア推進課と連携して実施したのですが、どちらも他課との連携は初めての経験だったので、最初は苦労しましたし、大変勉強になりました。

(丸山) 上越市では「元気の出るふるさと講座」というものがあります。これは、全公民館で実施した講座です。この講座では、各地区の地域性を活かした学びのテーマを参加者が考え、3年目を実現するというものです。公民館では、3年で終了しますが、その後は地域づくり担当の部署が引き継いで活動を支援しています。

(布施) 公民館が事業を立ち上げて、他の部署が引き継ぐというのは、良い流れですね。

(広瀬) これからにつながる事業をご紹介いただき、ありがとうございます。

それでは、最後に皆さんの考える「明るい未来、夢」をお話いただけますか。

(布施) 公民館には地域の人の出会い、学び、そして新たな気づきがあります。公民館の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、地域の中で大切にされる公民館であってほしいと思います。そして、人が多く集まり、笑顔が溢れる公民館であってほしいです。

(丸山) 地域に向いて、地域の人と関われば関わるほど、どんどんこの仕事が楽しくなることを実感しています。地域には公民館の魅力を知らない人が大勢います。公民館の魅力を幅広い世代に知ってもらい、公民館にたくさんの人が集まってほしいと思います。

(渡邊) 最前線で地域の人と関わる仕事に一番の喜びを感じます。今は、館長という立場から、丸山さんや布施さんとはちよつと違った関わり方になっていまして、若いお2人をうらやましく思います。

小千谷は分館がたくさんあります。分館が活性化すれば、公民館全体が良くなると思います。小千谷を良くするために、できることを精一杯やってみようと思います。そして、「やっぱり公民館は必要だね」と言われるような公民館であってほしいと思います。

(広瀬) 本日は、大変貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございます。(小出 記)

# 実践記録シリーズ

250

## 市民大学講座 「心豊かに輝く未来」

加茂市公民館

今年で42回目を迎える市民大学講座は、5月から7月までの毎週月曜日の午後7時から8回の講義を開催しました。

各分野で活躍されている方々から、研究・開発のエピソード、知られていない物語を1時間半という限られた時間でお話していただきました。

第1回 ㈱新潟放送アナウンサーの石塚かおりさんから「物は言いよう、気の持ちよう、言葉の力は想像以上」と題し、インタビュの経験から得たお話をいただきました。

第2回 新潟大学准教授の山口智子さんから「調理を科学する〜野菜の摂取における調理の意義」と題し、野菜を切る・加熱する等が野菜に与える影響等についてお話をいただきました。

第3回 ㈱山忠代表取締役社長の中林功一さんから「足からの健康とくつ下の可能性」と題し、くつ下を足の健康の関連性、足の健康と体の健康との関連性についてのお話をしていただきました。

第4回 新潟大学准教授の元永佳孝さんから「レクチェの美



第3回 講義

味しさ」と題し、ル

レクチェの栽培の歴史、最新の栽培方法の研究についてお話をいただきました。

第5回 新潟経営大

学男子バスケットボール部ヘッドコーチの田巻信吾さんから「熱意全国へ向けての取り組み」と題し、指導者として、練習や試合の失敗を自覚し、その対策をチーム内で説明し理解を得なければならぬ。競技だけではなく選手の卒業後のことも見据えた指導をしなければならぬ等の話をいただきました。

第7回 新潟経営大学教授の中島純さんからは「若者力を活かした加茂・泉央の魅力ある



第4回 講義



第5回 講義

まちづくり

〜大学生の地域貢献の可能性〜と題して、加茂市を市外県外の友人知人に紹介するのに利用できるような、学生目線のプロモーションビデオを作成している、というお話をいただきました。

第8回

新潟県民俗学会理事の高橋郁丸さんから「妖怪になった人たち〜酒呑童子伝説を中心に〜」と題して、酒呑童子を中心に、県内で妖怪になってしまった人々の伝説のお話をいただきました。

どの講座も講義終了後には受講生から活発に質問が出され、充実した講座となりました。なお、この市民大学講座は、生涯学習活動として「いきいき県民力レッジ」の登録講座になっています。

(有本 記)



第8回 講義



第7回 講義



篠笛の魅力を  
伝えよう

笛吹風 (AGANO)

笛吹風 (AGANO) として、篠笛が大好きな人達で演奏活動しているグループです。ふれあい会館で毎月第4日曜日に活動しています。「色々な楽器と共演し、更なる篠笛の魅力を皆様にお伝えしていこう」とをコンセプトに、お囃子は勿論のこと、ポップス、Jazz、唱歌、童謡、民謡など、ジャンルを問わず、皆様に楽しんで頂ける曲の演奏を目指しています。

主にNHKカルチャースクールのメンバーで構成されており、最近ではジャンベ、ギターリストの方や民謡の先生方と一緒にイベントや福祉施設等で演奏を致しております。また、篠笛を吹いてみたい方への指導やお祭りなどで途絶えてしまったお囃子の



復活などのお手伝いもしております。

地域交流の重要な役割を持つ「お祭り」が、「笛吹き」と共に減少する昨今、音楽として新しい「篠笛」の魅力を発信したいと考えております。メンバーには福祉、教育関係をはじめ、農業、公共団体の職員が含まれ、それぞれの視点で「篠笛の音色がどのように社会貢献出来るのか模索中」です。

阿賀野市・笛吹風 (AGANO)  
三原 浩昭 記

楽しくをモットーに

ピアノ

この講座は、平成27年4月に講座名「ピアノで脳トレ」、参加者3名で木野裕子先生のもとで始まったピアノ教室です。翌年に初めてでも両手で弾ける大人の為のピアノ教室「らくらくピアノ」となり、平成30年12月現在3グループ総勢27名で毎月第

2・4火曜日の朝9時から午後にかけてグループごとに木野先生に指導を受けながらキーボードで楽しく時ににぎやかに練習しています。

12月11日に今年最後の講座として3グループ合同で南魚沼市民会館内にある多目的ホールのステージ上で日頃の練習の成果を披露しました。「荒城の月」渚のアダリイヌ「シバの女王」枯葉」と名曲の数々を演奏しました。プログラムには「華やかにおしゃれにしてステージに。演奏は1割、衣装が9割。お化粧は1cmのつもりで」と書かれていました。

演奏会が終わって1月から3月までは冬休みです。ピアノを通じて喜びの輪が広がっていくような気がして来年が楽しみです。



南魚沼市・らくらくピアノ  
岡崎 玉枝 記

津南町 津南町公民館  
助手 高橋 和人さん



津南町公民館の図書室で勤務されている高橋和人(たかはしかずと)さんを紹介いたします。津南町公民館の中にある図書室で図書業務を主に担当しています。

中でも、移動図書車「ひまわり号」で町内各所へ出張での本の貸出を行っており、特に保育園や小学校へ行った際には、子供達からは大人気です。5月～2月まで、毎月6回実施しており、利用者からのリクエストに丁寧に対応し、「いつも園児や子供たちから元気をもらっています。」と楽しく触れ合っておられます。

県内でも豪雪地域である津南町にとって、大型な移動図書車での冬場の運転はかなりの技術を要しますが、難なくこなし、各集落の方々に笑顔と本を届けています。また、手先が非常に器用で図書室内のお知らせ用のポップや見出しを作る作業が得意で利用者の立場に立った工夫を常に考えていらっしゃいます。

(津南町教育委員会 村山 大夢 記)

出雲崎町教育委員会教育課社会教育係  
参事 矢川 浩之さん



出雲崎町教育委員会社会教育係に十数年ぶりに帰ってきた矢川浩之参事を紹介します。

人は見た目が9割…と書物にもあるように矢川参事はまさに見た目通りのとても優しい方です。おそらく、捨てられている子犬や子猫を放っておかず、自宅に連れて帰っては叱られ…を繰り返していた少年時代に違いありません。(個人の想像です)

矢川参事は社会教育係の要として、様々な業務を担っています。街並再生、交流推進など難しい課題に対しても、これまでの知識と経験をフル活用し臨まれています。何事においても一所懸命に真摯に取り組み、町民からの信頼も絶大です。

多くを語らず俺の背中を見て仕事を覚えろというスタンスなので、仕事においては厳しい人と思われがちですが(個人の感想です)、本当は誰よりも面倒見がよく、頼れる存在です。

暑い夏、タオルを頭に巻いて汗だくになりながら、私の仕事を手伝って下さったこと、今でも感謝しています。(出雲崎町教育課(中央公民館)主任 小林ひろ子 記)

素顔拝見

ネットワーク

下越地区公民館職員  
研修会開催される

期日 平成30年12月5日(水)  
会場 新潟県少年自然の家  
(胎内市)

参加者 19名(7市町村)  
内容  
研修1 「うどん打ち体験」  
少年自然の家指導員  
研修2 「笑いヨガ体操」  
村上市社会教育指導員  
研修3 「情報交換」グループ別  
テーマ：地域資源を活用した学校の教育活動への関わり方について



うどん打ち体験

少年自然の家の皆様のきめ細やかな対応のお陰で滞りなく研修を進めることができました。笑いヨガの際には少年自然の家の職員の皆さんと一緒に参加してくださり30名以上で大きな声で笑いました。参加者の皆さん

は初対面の方向士でも意欲的に交流され、笑いあふれる研修になりました。  
また、研修3については、難しいテーマかとも思いましたが市町村ごとに実態を確認され、今後の取組について考えていただくきっかけとなったのではないかと思います。  
これまで、学校と公民館が直接かかわることは少なかつたと思いますが、今後は地域学校協働本部の活動等で学校と地域の要となる役割を果たしていただきたいと感じました。感想 下越教育事務所 社会教育課 長谷川宮女子副参事)

お元気ですか

「お元気ですか」

南雲フイ子

(湯沢町)



数年前に町の保育士を定年退職してから、湯沢町公民館へは足繁く通っています。勤めてきた仕事柄、子どもとのふれあいの場を持ちたく、また、町の子どもの成長をお手伝いしたいと思い、絵本の読み聞かせボランティア「虹の会」に加入しました。公民館で行う月2回の定例会では、仲間と読み聞かせのコツを学んでいます。子どもへの読み聞

※「お元気ですか」のコーナーは掲載をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

かせは、湯沢学園の朝学習時間であったり、認定こども園のふれあい広場であったり、保健センターでの乳幼児健診であったりします。子どもたちや若いお母さんたちとのふれあいで、私自身もたくさん元気をもらっています。  
また、公民館ではサークル活動や公民館講座にも参加しています。サークル活動では、英語や歴史、音楽サークルに

参加し、人生の幅を広げ、楽しく仲間づくりをしています。特に地元の歴史に興味を持ち、「湯沢の自然と歴史にふれる講座」にも参加しました。湯沢に長年居住しながら、今まで知らなかった歴史や触れることのなかった自然を学び、毎回、感動の連続でした。  
さて、このように公民館を利用し、素敵な出会いや驚きの発見、そして少しずつですが自らの成長に感謝しつつ、これからも地域貢献をしていきたいと思っています。

雪によって生ずる諸問題解決のため取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊富な水資源や良好な自然環境に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入村 明(会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年の1月にプロスキーヤーの三浦雄一郎さんが86歳で南米大陸最高峰アコンカグア(標高6962m)の登頂とスキー滑降を目指し

ているというニュースを見ました。人生100年時代とはいえ、三浦さんがトレーニングする姿に元気をもらいました。私も去年は挑戦できなかった近辺の山を登り、体力づくりに励みたいと思いました。(広瀬)